


 <私の書いた本>

北川博敏著『香川版グルメの哲学』（美巧社，平成12年11月発刊）

 香川大学名誉教授
 香川短期大学学長
 北川博敏

「グルメの哲学」は私が香川大学に在職中、平成3年1月から、停年になった平成6年3月まで156回四国新聞に連載したコラムである。

このうち、食物に関するもの120題を東京の書店から出版したが、第2版まで発刊した時に、この書店が破産したのでそのままになってしまった。

たまたま美巧社の池上任社長に、その話をしたところ、もう一度出版しないかと勧められ発刊したのが「香川版グルメの哲学」である。

東京の書店は全国に売りたいから脱讃岐をしてくれと頼まれて、香川県に関するものを省いていたが、今回はそれを復活した。また、四国新聞の客員論説員として「論点・香川」に書いた食物と健康に関するものおよび朝日新聞に連載した讃岐うどんを加えたので旧刊の「グルメの哲学」とはかなり内容が変わっている。

もともとコラムなので見開きの2頁を一題にし、「食物と健康」、「日本食」、「果物」、「野菜」、「讃岐うどん」の5部構成の156題となっている。

香川県に住みながら、余りご存知ない香川の産物を多く書いている。私は「かがわ地産

地消運動推進会議」、「かがわ農産物流通消費推進協議会」の会長をしているが、香川県の産物を知って頂く上で役立つ本だと思っている。

なお、平成14年10月から「続・グルメの哲学」を四国新聞に毎金曜日、連載を始めた。これは、「平均寿命世界一、年をとっても老けない」と世界的に有名な日本人の健康が、生活習慣病の大発生で大変な事態になりつつあるので、その警告を食物と関連づけて書いているものである。

日本人の平均寿命は現在も世界一といわれているが、それは寝たきり老人が多いからとの説もある。そこで、生活習慣病を予防して21世紀を健康に生きる方法について筆を進めているので、この連載も是非お読み頂きたい。

